学園ニュース 富山大学 NO.60

編集　学園ニュース編集委員会　発行　富山大学　　昭和63年6月30日

学内風景（その25）学生会館裏通り（教育学部第3棟）　畠　山　雅　弘

目　　次

新入生諸君へ …… 教養部長 …… 大谷　重彦…… 2
図書館二題噺“モンテ・カッシーノとウッヅ・ホール” …… 附属図書館長 …… 小嶋　學…… 3
新入生，保健管理センター・オリエンテーションから …… 保健管理センター所長　稲垣　保彦…… 5
新任教官紹介及びあいさつ …… 6
タンザニア調査の旅から …… 人文学部教授 …… 富川　盛道…… 19
人文学部の特定研究 …… 人文学部教授 …… 秋山　進午…… 21
留学生活で感じたこと …… 外国人留学生（工学部）呉　為民…… 22
学生部だより …… 24

新入生諸君へ

教養部長　大谷重彦

この文章が諸君に読まれるのは，もう夏休も間近い頃だろうから，今更諸君を「新入生」呼ばわりするのはおかしいかもしれない。また，私自身にしても，四月一日に教養部長に就任したばかりの身で，入学式後の教養部オリエンテーションに，生れて初めて1,400人近い人の前で壇上に立った時の苦しい体験は，もうかなり以前のことのように日々記憶から薄れて行きつつある。しかしながら，この文を書いている今日は，大学祭も済んで静かになった構内に，梅雨じみた雨がうすら寒く降っていて，一年生の教室に出てみると，何となくガランとして生気がなく，欠席が目立ちはじめている。これはいけない，四月当初のあの初いういしい熱気はどこへ失せたのか？　大学生活に慣れるのはよいが，狎れてはいけない，まだやはり「新入生」としての諸君に話しかける必要がありそうだ……，と考えて，私もまた新米の部長として，初めて「学園ニュース」に緊張のペンを執っている次第である。

4月11日，新入生諸君を教養部へ迎えるに当って私は諸君に二つの事を要望したが，諸君は果してそれを覚えていてくれるであろうか。

そのひとつは，「富山大学学生としての責任と義務を想え」ということに要約されるが，その責任や義務とは，単に諸君の個人的な境遇に対するものだけではなく，諸君をして富山大学学生であることを可能ならしめている諸条件の中で，ややもすれば見落されがちな部分，大学入試が資格試験でなく競争試験である以上は当然のこととして顧みられない影の部分——諸君が入学するに当って排除してしまった6,000余人の富山大学志願者たち——に対する責任と義務のことなのである。

現在の自分の幸せが（大学に入学できたことは幸せのひとつに違いない），幾人かの他人の不幸せ（目指す大学に入れなかったのは不幸せのひとつであろう）の原因となっている，とは言わぬまでも，他人の不幸と関連している，という意識を持つことは苦しいことである。そういう重苦しい関係は念頭から拭い去って現在を享受したい，と思うのは人の常である。しかし社会の中の影の部分の存在を意識することは，勝れた社会人の資格のひとつであろう。そして，単に大学生も社会の一員だという客観的事実だけではなしに，諸君が排除した他の同年輩の人達との関わりにおいてこそ，諸君は「社会」と無関係ではあり得ないのだということを自覚してほしい，と私は思う。自己以外に自分を縛るもののない大学生活の自由さにふと惑わされて怠け心が生じたり，あるいは，とりとめもない日常に埋没して人生のすべてが無意味に思えたりする瞬間があれば（そういう瞬間は誰しも持つはずだが）——，その時は，そのような自分よりはもっと大学生であるにふさわしい或る他人が，自分の代りにこの場に存在しているべきではないか，と反省してほしいのである。もちろん常時そうした反省の緊張に耐えることは我々凡人にはできないが，たまには意識して自分に「他人」という鞭を当てる必要があろう。

さて，次に，新任の教養部長である私は，教養部のオリエンテーションで先ず「教養」というものを分り易く説明できないものか，と考えた。よく引き会いに出される事だが，ドイツの小説の中の伝統的なジャンルに „Bildungsroman“ というものがある。日本では一般にこれを「教養小説」と訳しているが，Bildungは英語のbuildと同根で，ここで言う「教養小説」とは実は「人間形成小説」とでも言うべきものであり，「教養のために読まれるべき小説」という意味では決してない。（無論教養のために読んではいけない，という事ではないので，大いに読んでほしい）。こういう小説ではひとりの素朴な，傷つき易い心を持った少年乃至青年が，学校へ上ったり，世の中へ出たりして，恋や仕事や病気や戦争など，さまざまな体験を経ながら自己を高めて行く過程が描かれるのが常である。つまり西欧的な概念としては，cultureにしろBildungにしろ，「教養」とは自己を養い形成することを本義とするものであろう。この「自己を形成し高める」という思考に，何故ともなくピラミッド状の構造物というイメージが私の頭の中で結合して，「教養とは高まろうとするピラミッドの底面積である」という比喩ができ，「人格の底面積を拡げる努力を！」という二つめの要望が出て来たわけである。

もちろん比喩はあくまで比喩であって，物事の直観的な把握には役立っても，これで以ってすべてが言い

尽されているわけでは決してない。ただ，最近諸君の間にも実利的思考がはびこり，すぐに役立つものを求め，専門的知識に早く触れたがる傾向が顕著であることを想うと，ピラミッドのあの安定感のある美しい姿を借りて，外からは直接見えないが，観念の中では確固とした存在感を持つその底面の広がりを説いてみたかったのである。

こうした教養概念と大学における一般教育との関り会いを考えることは，次の重要事であろうが，今はただ新入生諸君に二つの要望を繰り返し述べて，新任の私ともども「初心忘るべからず」と戒めたい。

（63. 6. 3）

図書館二題噺“モンテ・カッシーノとウッヅ・ホール”
――図書館長就任のあいさつに代えて――

附属図書館長　小　嶋　　學

今，私は2枚の写真を手にしています。その1枚は，イタリヤは中部，ローマとナポリのほぼ中間に位置するモンテ・カッシーノ大修道院の図書館に収蔵されている，西暦960年に古代イタリヤ語で書かれた古文書の一部の写真であり，他の1枚は，アメリカは東海岸，ボストンの南にあるウッヅ・ホール臨海実験所の図書館閲覧室にかゝっている1枚の額の写真であります。私が，何故この2枚の写真を取りあげたのか，その理由については，やがて，お分りいたゞけるものとして，先づ，最初の写真から話を進めましょう。

御存知の方も多いと思いますが，モンテ・カッシーノ大修道院は，丁度，日本では聖徳太子が摂政であられた西暦529年に聖ベネディクトによってひらかれた僧院に端を発し，その後，修道院制度のみでなく，教育・文化の中心ともなって行ったと考えられる由緒ある場所なのです。また，第2次世界大戦の末期近く，約5か月に亘り，連合軍とドイツ軍との間に血みどろの激戦がこの辺り一帯にくり展げられた際，連合軍の爆撃によって，修道院の建物は徹底的に破壊されてしまい，戦後，再建されたという事実を知る方々も多いことと思います。実は，爆撃により破壊される数か月前，聖ベネディクトの遺骨や遺宝などの宝物と共に，図書館に収蔵されていた8万巻にものぼる貴重な古文書や書籍は，ドイツ軍の手によってバチカンに運ばれていたため幸にも戦火をまぬがれ，戦後再び，無事モンテ・カッシーノの地にもどることが出来ました。現在，私が手にしている写真の古文書も，勿論，その中に含まれていたものの一つです。私は，今，もうふた昔以上も前に，モンテ・カッシーノを訪れた時の事をなつかしく思い出しています。標高500米余りの，所々に岩が露出してゴツゴツした山の上にその修道院はありましたが，そこから，眼前にひろがる一望千里の今は平和に充ちあふれた緑の平野を前にした時，戦争当時，如何にこの地が，戦略的に重要な位置を占めていたかということを，しみじみと実感しました。その時，私の胸に浮かんできた思いは，それ故にこそ，この修道院が，自らは修道院制度発祥の地であり，創設当時から修道士たちが読書を課せられていたという学問・文化の中心地でもありながら，物質のみでなく人の肉体もそして心までも破壊しつくす，あのいまわしい戦いの真只中に置かれてしまったという運命の皮肉さでありました。そして，一方において，私達人類が2度と手に入れることの出来ない，精神的・文化的遺産が破壊から守りぬかれたという喜びでありました。

閑話休題，2枚目の写真の話に移りましょう。今1枚というのは，最初にも書きましたように，世界でも最大の規模を誇る，アメリカはウッヅ・ホール臨海実験所図書館にある有名な額の写真であります。この額は，図書閲覧室の壁にでんと掲げられていて，それには，こう書かれています。“Study nature not books”と。これは，この実験所の設立に深い関係のあったアメリカの生物学者，ルイ・アガシーの言葉ですが，何という皮肉でしょうか。本を読もうと思ってやって来る人達に向かって，“本など読むな，あるがまゝの自然を見て勉強せよ”と云うのですから。もっとも，この言葉については，もう一つの解釈の仕方があるようです。即ち，“本を全く読むなと言っているのではない。先づ，本を読め。しかし，本を読むだけでは駄目だ。実際に，あるがまゝを見て自然から学べ”という解釈の仕方です。このように，額の言葉を受けとることが正しいかどうかは別として，正直申し上げて，私は，このような解釈の仕方に大いにひかれてい

ます。人間というのは，目の前に物があっても，それを受け入れるため心に準備がないと見えても見えないものです。何か事件があった時，そこに居合わせた人達の証言が，往々まちまちであることからでも，よく分ります。私達の方に，受け入れるだけの準備がないと，カメラのレンズのようにバッチリと，心に映像を結ぶことは出来ません。例えば，本などを読むことにより，前以ってある程度の知識を得ておけば，より容易に，あるがまゝを見，より確実に，真実を見定めることが出来るようになるのではないでしょうか。これも，程度問題で，本の知識にのみ凝り固まってしまえば，今度は，あるがまゝを見ることは出来なくなるでしょう。丁度，地球の周りを廻っている人工衛星と地球との関係のように，つかずはなれず，とらわれることなくとらわれるという境地で物事を眺めることが必要なのでしょうね。これは非常に難しいことですが－。

さて，いよいよ，話が大詰めに近づいて来ました。実は，私は，最初の写真から，図書館に関わる者として，図書館のあり方を，もう1枚の写真からは，逆に図書館を利用する者として，本の読み方を考えてみたかったのです。確かに，数多くの貴重な図書を整備し保管することは図書館本来の重要な使命ではありますが，単なる図書の整備のみでなく，文化的・学術的情報のサービス・センターとしての機能を発揮することも，今や図書館にとって，重要な使命となって来つゝあります。そのような図書館の性格のさま変りに対応するため，図書館側といたしましては，最大限の努力を尽してゆきたいと思っています。どうか，私達の周りの事象のあるがまゝを見，本当の姿を見定めうる，心の準備をしていただくために，大いに図書館を御利用下さい。お待ちしています。

新入生，保健管理センター・オリエンテーションから

保健管理センター所長　稲　垣　保　彦

入学おめでとう。悔い無き学生時代の秘訣は，目標・計画・実行・反省のサイクルを大切にすることではなかろうか。人生は習慣の束であるともいわれます。よい習慣を沢山もつことです。何事も長く続けて，よい習慣とすることです。健康は睡眠・栄養・運動を意識的に生活の中で追求することです。太陽とともに起き，働き（勉強し），疲れを感ずる程に活動し，この疲れを夜の間に回復するというのが，自然人としての正しい生き方ではなかろうか。西ドイツのことわざに，
―　人生健康が唯一ではない。しかし，健康でなければ何も出来ない　―と，この二つのフレーズの掛け橋は知識であり，考え方でなかろうか。大学は学問の府である。そして現代は知的反応の時代である。生きることは呼吸することではない，活動することにある。友人・自由・信じ合う喜びを大切に前進されんことを期待しております。

ちなみに，私のいきいき健康法を併記いたします。

○健康三原則と生活リズム

睡眠・栄養・運動を目的意識的に，生活の中で追求することです。目標・計画・実践・反省のサイクルを大切にしています。継続の鍵は日記をつけることです。１０年日記は，自分を奮起させていると自信をもっていえます。

○年に１～２回の自然探索を

頭脳の掃除，心の洗濯は自然に接することです。山などに行くことは，ひまをつぶすようであるけれども，人間性を高めるためには決して無駄ではない。常に自然の気を享けて，肉体を養っておけば，世間のつまらない気を享けることはない。三泊四日の剣岳登山はつらいけれども，その印象は常に自分を活き活きさせてくれます。

○達成感のある趣味を

晴れた日は毎朝ラジオ体操のあと，１時間程度野菜づくりを楽しんでおります。耕し，種をまき，水をやって生育していく野菜の新鮮さは，からだと心の健康を約束してくれます。腹の底から，小声ではあるが，張りのある声で唱う花鳥風月の小唄は，気持をなごませてくれます。人生は習慣の束であるといわれます。何事も長く続け，よい習慣にすることが大切と思います。―― 不きげんは怠惰と同じです。つまり怠惰の一種なのです。わたしたちは怠惰に傾きやすい。けれども，いったん奮発すれば，仕事はすらすらはかどりますし，活動に本当の喜びを見いだすことができましょう。――（ゲーテ）――

○退屈を克服するからだの動き

ある時，こんな事があって，なるほどと意を強くしたことがあります。その日，中庭のぬれ縁を作ろうと思いたち，先づ竹の準備をと，家内の里に行った時のことです。祖父は気持よく「あゝ，いくらでも持っていけやぁ，気がねはいらんよ」「うまく出来るかどうか心配ですが」と一寸遠慮気味に話した時，「いや，動き始めれば仕事は半分道や」と，夢中で３時間，あれやこれやと八方に想をめぐらしながら工夫して，なんとかぬれ縁らしきものが出来上った。美しい緑の竹縁に腰をおろし，うまいビールを飲みながら，つくづく老人はうまくいうもんだと，「動き始れば，仕事は半分道や」のことばに，感心させられたものです。「動き始める」このことは「歩き始める」にも通じる，山での縦走は歩き始めなかったら，目標の山には達せられない。仕事も，何もかもが動き始めなかったら万事休すである。「歩く」といったら，今一つ，大切にしている名言があります。大哲ルソーの告白「ひとり徒歩で旅した味ほど，ゆたかに考え，ゆたかに存在し，ゆたかに生き，あえていうならば，ゆたかに私自身であったことはない。徒歩は私の思想を活気づけ，生き生きさせる何ものかをもっている。私の精神を動かすためには，私の肉体が動いていなければならないのだ」と。勿論，歩くことは立派な運動である。しかし，それ以上に，動的哲学ともいうべく「思考の場」，人間の内面的，精神的，活発なえい智を醸成する，もっとも人間らしい行動でなかろうか。

新 任 教 官 紹 介

○渡辺　洋　教授（人文学部）63. 4. 1
昭42. 3　東北大学大学院文学研究科修士課程修了
担当：比較文学

○水内　俊雄　講師（人文学部）63. 4. 1
昭59. 3　京都大学大学院文学研究科修士課程修了
担当：人文地理学

○永井　龍男　講師（人文学部）63. 4. 1
昭61. 3　東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程
単位取得退学
担当：哲学史

○重見　一行　教授（教育学部）63. 4. 1
昭56. 3　大阪大学大学院文学研究科博士課程後期課程
単位修得満期退学
担当：国語学

○岸井　勇雄　教授（教育学部）63. 4. 1
昭37. 3　東京大学大学院人文科学研究科博士課程
単位修得満期退学
担当：幼児教育

○廣瀬　信　講師（教育学部）63. 4. 1
昭58. 3　京都大学大学院教育学研究科博士後期課程
単位修得満期退学
担当：教育史

○山口　孝道　助教授（経済学部）63. 4. 1
昭33. 3　東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了
担当：基礎法（政治学）

○唐津　博　助教授（経済学部）63. 4. 1
昭60. 3　同志社大学大学院法学研究科博士課程後期課程退学
担当：民事法（財産法概論）

○河野　三郎　講師（経済学部）63. 4. 1
昭63. 3　神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程退学
担当：応用経営（流通論）

○西村　秀二　講師（経済学部）63. 4. 1
昭60. 3　上智大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学
担当：基礎法（刑法）

○松井　隆幸　助手（経済学部）63. 4. 1
昭62. 3　九州大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学
担当：比較経済論（日本産業論）

○池田　公司　助手（経済学部）63. 4. 1
昭63. 3　神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程退学
担当：経営学（簿記原理）

○吉田　範夫　　教授（理学部）63. 4. 1
昭49. 4　　広島大学大学院理学研究科
修士課程修了
理学博士
担当：応用解析学及び電子計算機論

○藤田　安啓　　講師（理学部）63. 4. 1
昭62. 3　　神戸大学大学院自然科学研究科
博士課程修了
学術博士
担当：数理統計学

○菊池　万里　　助手（理学部）63. 4. 1
昭63. 3　　富山大学大学院理学研究科
修士課程修了
担当：数理統計学

○田村　典明　　助手（理学部）63. 4. 1
昭57. 3　　九州大学大学院理学研究科
博士課程　単位取得退学
理学博士
担当：植物生理学

○西村　龍夫　　助教授（工学部）63. 4. 1
昭55. 3　　広島大学大学院工学研究科
博士課程後期　単位取得退学
工学博士
担当：輸送現象

○高井　正三　　助手（工学部）63. 4. 1
昭48. 3　　富山大学文理学部理学科卒業
担当：制御工学

○山田　昌樹　　助手（工学部）63. 4. 1
昭63. 3　　東京大学大学院工学系研究科
博士課程　単位取得退学
工学博士
担当：有機合成化学

○中　　純夫　　講師（教養部）63. 4. 1
昭62. 3　　京都大学大学院文学研究科
博士課程　単位取得満期退学
担当：倫理学

着　任　雑　感

人文学部教授　渡　辺　　洋

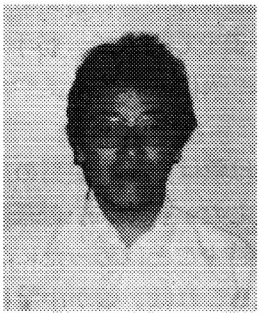
「新任の挨拶を一筆」とのご依頼を受けましたが，私の場合すでに昨年１１月１日付で「富山大学人文学部へ併任する」との辞令をいただいていますので，ご挨拶が大変遅くなったことになります。ところで「併任」という言葉，少なくとも普通の国語辞典には見当りませんが，文字通り「任務を併せて遂行する」という意味だろうと思います。しかし実際にはひとりの人間がこれを全うすることは物理的に不可能ですので，やむを得ず１１月と２月の二回，集中講義の形式で切り抜けさせていただきました。この間，卒業論文提出を目前に控えた四年生をはじめ学生諸君には教師不在ということで大変ご迷惑をかけましたが，ようやく４月１日付で「富山大学人文学部へ配置換する」との辞令を手にいたし，名実ともに富山大学の一員に加えていただくことになりました。個人的には11月１日付で正式に赴任することにそれほどの支障もなかったのですが，学年歴半ばでの転出は予想以上に困難でした。しかしいま振り返ってみますと，私にとって４月に着任できましたことは本当に幸せでした。単に４月入学，３月卒業という現行の学校制度のもとで新学期からの赴任が望ましいということだけではなく，４月は山々の残雪が地肌の黒さを際立たせ，水ぬるみ川面に春の陽光がきらめき，野辺の花が咲きほころぶ季節だからです。

誰しも新任地に対しては期待と不安を抱くものです。せめて自然にだけでも暖かく迎えてもらいたいと願わない人はいないでしょう。これが晩秋，冬を真近にひかえての着任だったら，おそらく気が滅入っていたにちがいありません。それほどこの地の冬は陰鬱です。立山連峰の雄大さも，神通川の清浄さも春なればこそでしょう。１１月と４月では気持の上で雲泥の差があったと思います。それは私が根っからの東北人でありながら，中学，高校時代をこの地で送り，富山の冬を身をもって体験しているからです。それにしても３０年ぶりに目にする街並の様変りには驚いていますが，なつかしさも一入です。ふたたびこの地に戻ってくることができるとは夢想だにしませんでした。

比較文学の歴史は浅く，およそ百年にすぎません。しかも日本においてこの学問が市民権を得たのは戦後のことです。この「若くて美しい学問」をわが青春の地，富山で若い学生諸君とともに学べることの幸せを日々実感している着任後の１カ月半です。

新　任　紹　介

人文学部講師　水　内　俊　雄



私の属する地理学は歴史だけは古くギリシャ時代から存在しますが，学問的洗練度は他の人文社会諸科学に比し自慢できるものではありません。要するに未だに１９世紀的博物学のにおいを残している学問といえます。それ自体何物でも貪欲に喰ってしまう好奇心旺盛な所があるのですが，料理の仕方がまずく，というか料理法が洗練されておらず，他の学問成果との食べ比べが十分にできておりません。しかしここが若い地理学徒の目のつけどころで，未開拓な分野は多く残されております。私の経験から申しますと，他学問の食べ残しをあさって意外とおいしいものを仕入れているような変な快感で学問がやってこれました。

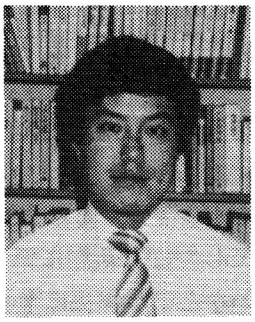
ところで，日本では地理学はいまだに理学部と文学部に分れて所属しております。教育学部，経済学部に属する地理学コースを除くと，理学部，文学部の区分は地理的にはっきりしており，さしずめ糸魚川ー静岡構造線でしょうか，東が理学部，西が文学部となります。と言うことでわが人文学部の人文地理学コースは日本で最も北，かつ東にある文学部系の地理学研究室であるという栄誉あるコースであります。

と我が身を振返ってみますと，この３月までは九州大学文学部の地理学研究室で助手をやっておりましたが、よく地図帳を見れば文学部系では最も西に位置するこれまた光栄な研究室におったわけです。地理学の防人として院生・学部生に周縁からの「革命」を誓った同じことを今度は最北端，最東端の富山で実現となるわけですが，ひとえに院生・学部生の御助力，精進をお待ち申し上げております。

和歌山→京都→福岡→富山と渡り歩いております。周縁が九州，北陸なら中心は和歌山かといえばとんでもなく，関西の大いなる周縁の出身です。因みに雪の経験はありません。

着　任　の　挨　拶

人文学部講師　永　井　龍　男



イギリスの田舎道を学生が歩いていると猪がとびだした。「ギリシア語だぞ！アリストテレスだぞ！」と言って手に持っていた本を猪の口に入れたところ，猪は悶死した。――そんな話ができるほど，「チンプンカンプン」の代名詞であるギリシア語の中でも，アリストテレスはそのチンプンカンプンさにおいて最たるものと考えられてきたようです。何しろ猪を殺傷するほどなのですから，イギリスの学生など，ひとたまりもなかったのでしょう。何の因果か，ここ十年来「猪殺し」につき合ってきました。一番の専門は彼の自然学です。アリストテレスの自然学と言ってピンとこない方も，ガリレイやその後の学者たちにコテンパにやられたやつだといえば，「あれか」と思い当るのではないでしょうか。現在，イギリスやアメリカでは古代ギリシア哲学と現代の分析哲学の間の交流がさかんで，両方の距離は以前よりもはるかに接近してきています。意外に思われるかもしれませんが，ギリシア哲学は言語分析と論理を第一の研究方法にしていましたから，現代英米哲学と共通する面が多いわけです。古代の研究者が現代の分析方法をとり入れるのはもちろんですが，たとえばアンスコム以降の行為論におけるように，古代で行なわれていた議論が，そのまま現代の中心的問題としてとりあげられることもめずらしくありません。学生諸君に，そのような新しい息吹の一端を授業で伝えられれば，と思っています。最後に，私の名前について一言。或る日，父親が新聞を読んでいたら，そこにいい名前があったのだそうです。ちなみに，彼は私の小説を一度も読んだことがないそうです。

新 任 の 御 挨 拶

教育学部教授　重　見　一　行

本年（昭和６３年）４月１日付けで，教育学部国語学担当として皆様の仲間入りをさせていただきました。これまで私立の女子短大におりましたので，色々とまどうことがありましたが，２カ月目が過ぎようとする頃になって，少し慣れてきたように思います。

元来私は国文学の徒でありまして，学部卒業時は中世歌論，ついで中世宗教書誌の研究，そしてついに国語学にたどりついたという次第です。ファウストにならって，「文学も歴史も，そしてよけいな宗教まで，一生懸命研究した。思えばなんという馬鹿げたことだろう。ここにこうしたまま，おれはちょっとも賢くなっていない」とでも言いたい経過でした。しかし，今はやっと国語学にやりなおしの人生を見出して，従来の構文論はコンピュータにはとても入力できないものだから，新しい構文論を考えなければならないなどと，年がいもなく意気込んだりしております。考えてみますと，私の敬愛する国語学者 三上 章氏は同郷（それも極く近い）の出身ですし，尊敬する偉大な国語学者山田孝雄氏はこの大学に近い総曲輪の生まれと聞いております。二人とも相当まわり道をした人で，勝手ながら不思議な因縁を感じ，私も二人に少しでもあやかりたいと思っている次第です。

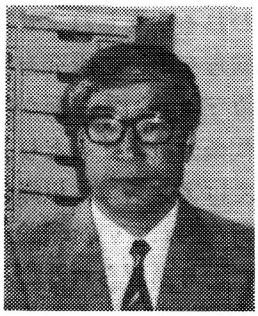
こちらに参ります時は，富山は魚はうまいが雪の多い寒い所と，かなりおどされました。確かに，赴任以来宿舎の部屋の温度計が20度を越すことはめったになかったように思います（もっともこれは，娘が小学校の時にもらった時計式の温度計で，少々の温度差は我慢するようですので，あまりあてにならないのですが）。

しかし，ベランダから見える立山連峰の雪をいただいた姿は，瀬戸内の南向きの団地で眠りかけていた者には目をさますのによい眺めと思われますし，元来海を見るのが好きな私にとりましては，少し乗り物にのれば，瀬戸内の海とはまるでちがった日本海の風景を目にできるのも，有難い事と思っております。

教育学部は，自分の研究と同時に，特に実践的な学生指導も要請される所と思います。微力ながら，できるだけ努力をいたしたいと思っております。皆様の御指導御鞭撻をいただきますとともに，御好誼のほど，よろしくお願い申しあげる次第です。

富山大学に着任して

教育学部教授　岸　井　勇　雄



今を去る30年余の昔，大学院の学生で，奨学金とアルバイトでやっと生活していた私は，無謀にも結婚を決意しました。式も挙げず，夏休みを利用して兵庫県の彼女の実家で一応の祝福を受け，共通のサークルの先輩の社宅が富山市内だったので，北陸本線に乗ってそこをたずね，婚姻届に証人の判をもらった，それが富山との出会いだったのです。

私たちはそれから宇奈月温泉に泊り，桜平を経由して，当時建設中だった黒四ダムをのぞき，信州へ出，野尻湖，軽井沢を経て東京へ帰りました。真夏の太陽に残雪が光り，冷気のなか雷鳥を間近にした立山の印象はまことに鮮かでした。

「これからは地方の時代だ」などと生意気なことを言って意気投合していた私たちでしたが，新潟に県立の女子短大を創設するから来ないかというお話に乗り，その地へ参りました。以来18年間，幼児教育科を創り，附属幼稚園を創り，新潟大学の講師も兼ねながら，地域と密着した実践研究を続けました。

大きな教育改革を前に文部省からお話があったときは，大いにためらいました。中央に出るということは私たちの生活原理に反するからです。しかし「子どもの立場に立って教育を考える人でないと」という前任者のことばでお断りできなくなりました。

それから6年，中教審，臨教審，教課審の精力的な審議を経，調査研究協力者会議の協力によって，幼・小・中・高を一貫する教育課程の基準の見なおしがすすめられ，新しい教育要領・学習指導要領の告示も年内に行われる見通しが立ちました。

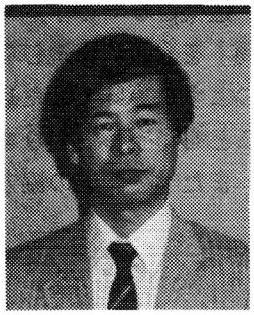
もう一年待っていただけたら，というのがいつわらざる心境でしたが，熱心なおすすめによって4月1日付で本学に着任させていただくことになりました。

教育県として定評のある富山，輝かしい実績を誇る本学の一員として加えていただいたことを光栄に思います。まだ僅かのふれあいですが，温かく迎えてくださった教職員の方々や，熱心に講義を聴いてくれる学生諸君に支えられて，これから微力を尽して成長したいと願っています。

正門通りに面した研究室の窓には「ゆりのき」の並木の緑が美しく映え，百合によく似た花をたくさんつけているのが見えます。四季の変化の豊かなこの地にあって，かけがえのない人生の時を，皆さんとの出会いのなかで燃やせることを，私は思いがけない幸せと感じているところです。

新任のごあいさつ

教育学部講師　廣　瀬　　信



この4月から教育学部教育学教室（教育史）でお世話になることになりました。専門はイギリスの教育史で，現在は主に19世紀の技術教育史の研究を行っております。

出身は京都で，高校時代に1年間アメリカへ行っておりました以外は，生まれてから，大学・大学院時代も含め，これまでずっと京都で生活してまいりました生粋の京都人です（もっとも，テレビ・ドラマなどでイメージされる洗練された「京都人」からはかなり外れておりますが）。 案外適応力はありますので，どこへ行っても生活してゆく自信はあるのですが，瀬戸内生まれの妻も私も雪の経験がないだけに，富山に来ることに何の不安もなかったといえばウソになります。しかし，とりあえず1年目の冬は，子どもといっしょに雪遊びにでも興じながら乗り切ろうと思っております。

富山に来てよかったと思うのは，やはり何よりもその恵まれた自然です。研究室の窓越しに雪をかぶった立山連峰が望めるのにはびっくりしました。何やらまるでスイスのアルプスにでも来たような感じがしました。しかし，スイスよりよいことに，富山には海もあります。新鮮な魚が安く手に入り，魚を食べることが多いわが家はたいへん助かっております。富山名物のホタルイカを始め，いずれも好評なのですが，とりわけ好評なのがタラです。これまでタラというと冷凍のカスカスのものか，正月の棒ダラ料理くらいしか食べたことがなかったものですから，妻などは「タラってこんなにおいしい魚とは思ってもみなかった」と感動してしまう始末です。富山へ来てまだ2ケ月，まだまだ体験していないことばかりですが，富山にじっくり腰を落ち着けて，一つひとつ富山の良さを発見して行きたいと思っております。

さて，最後になりましたが，着任にあたっての決意ないし抱負を述べておきたいと思います。大学の研究者ですから自分の専門領域での研究を深めていくことは当然のことですが，教育学部の場合，学問・研究の場であることに加え，未来の教師を養成するという重要な独自の（もちろん，開放制が原則ですから，教育）学部だけが教師を養成するわけではありませんが）使命を持っておりますので，この面での仕事に特に力を入れていきたいと思っております。今日，教育現場には様々な問題が山積しており，教師に求められるものはますます大きくなっております。大学だけで良い教師が作れるわけではありませんが，大学こそがやらなければならないこともあるはずです。良い教師を作っていくという社会的要請にどう応えていくか，先輩の先生方にも学びながら，自分なりに考えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

新任のごあいさつ

経済学部助教授　山口孝道

この春，住みなれた静岡県から富山にやって来ましたが，「婚期をとうに過ぎた娘をようやく送り出すような心境だ」という友人の言葉が身にしみました。1931年生れのわたし，決して若くはないばかりか，高校に30年も勤務して，くたびれかけていました。「今さら」というためらいを振切っての赴任でした。

学問は地図のない旅にもたとえられますが，わたしの場合は旅というほどではなく，イギリス名誉革命周辺の狭い範囲をそぞろ歩きしていたにすぎません。しかもアマチュアの気楽さから，専ら枝道に入りこみ，著名な文人たち（『ロビンソン・クルーソー』のデフォー，『ガリヴァ』のスウィフト）の余り知られていない政治的横顔も垣間見て，一人悦に入っていた次第です。気紛れな牛歩を見かねたのか，近年，友人の好意により，優れた先達の知遇を得，ちょっぴり勉強しました。その方のご指導の下，ハリファックス『日和見主義者とは何か』を邦訳，出版させて貰えたのは望外のことでした（未来社 1986年）。この文人政治家の紹介は，小篇ながらこれがわが国では初めてのものであることをこの場を借りてP:R: させていただきます。

どこからの援助もない代りに，拘束も責任もない気ままな研究を続けて来ました。「日曜画家」ならぬ「日曜学者」の30年でした。問われれば，「もの好きでやっているだけですよ」と笑いに紛らすのが常でした。しかしもはや，このような言い草は許されないでしょう。心残りながら，この際，道楽としての学問は棚上げにし，「職業としての学問」を念頭に精進しなければなるまいと存じます。そのような意味でわたしは今，晩学の門出に立っていることを痛感しております。どうか同僚の方々のご指導，また学生諸君の協力を心からお願いします。

着任のご挨拶

経済学部助教授　唐津　博

4月1日付で，経済学部経営法学科の民事法講座に着任致しました。労働保護法及び夜間主コースの財産法概論の講義を担当することになりましたが，財産法概論の講義は社会人の方を対象としておりますので，大学の学術研究，教育の在り方を考えるうえで，私自身強い意欲と大きな期待を抱いております。

私は，これまで労働法，特に財産法をその基礎におく労働契約論の検討を念頭において，イギリスの雇用契約論を研究してまいりました。今後も，引き続いてこの分野の研究をすすめてゆくことにしておりますが，それが講義のうえに少しでも反映できるよう一層研究に励みたいと考えております。

富山の地は，大学の四回生の時飛騨高山へのゼミ旅行の折りに訪れたことが一度だけで全く不案内ですが，街の背後に連なる峻厳な立山連峰の美しい姿が，ひときわ印象に残っておりました。私は熊本・天草に生まれ，高校までこの温暖の地で過ごしましたが，その後京都の大学，大学院に学び，悪名高い京の炎暑と底冷えのなかで暮らしてまいりましたので，伝え聞く富山の気候の厳しさもあまり気にしておりません。むしろ，私にとっては北陸の人と風土に大きな関心を寄せておりますので，富山での生活を楽しみにしております。

縁あって富山大学にお世話になることになりましたが，色んな点で皆様のお教えを乞わなければなりません。皆様方のご指導，ご鞭撻の程，宜しくお願い申しあげます。

異なる風土

経済学部講師　河　野　三　郎

新樹のみずみずしさがキャンパスを包む五月は，私にとり全く新しい風土との出会いであった。

三月末にこの地に着いた時，風は強く冷くしかも空は鉛色だった。樹木や草花の新芽は全く見られなかった。水道水は冷いというよりも痛いものであった。この瞬間から私は，異なる風土に接触し始めていたのだった。

四月になると，気温が上昇しはじめるとともに青空が続くようになった。だが，一日の気温の寒暖の差は著しい。四国の松山で生まれた私にとり，こうした気候に慣れるにはまだ時間がかかりそうである。やがて私は第二の異なる風土に出会うことになる。

第二の異なる風土との出合いとは，樹木や草花に関わることである。四月中旬から，樹木や草花の新芽が一斉に現われてきたのであった。その成長速度は，私が生活してきた松山よりもはるかに速く，私にとっては驚異的な現象であった。一週間程の期間に，新芽はみずみずしい緑葉をもつ新樹に変貌していたのであった。私が生まれ育った風土とは明らかに異なる風土，富山。私はまだ富山の四季を総て経験しているわけではない。しかし，まだ経験していない四季に接することによって，新しい異なった風土を再び発見するであろう。

このように私が経験したことのなかった異なった風土で，人間の日々の営みがどのようなものであるかを知ることも，異なった風土を理解するうえで不可欠であろう。このような理解を通じて，異なった風土が私にとりもはや「異なった」風土ではなくなってくるのである。

新任のごあいさつ

経済学部講師　西　村　秀　二

5年前，北アルプスの裏銀座を縦走し，富山におり，市電に乗って富山大学を見学に来たことがありました。その富山大学に，4月からお世話になることになりました。専攻は刑法，とりわけ故意論を中心としています。

生まれは，四国の高知です。その高知で18年間，そして東京で17年間暮らしてきました。南国生まれは，雪にあこがれが強く，大学時代も，夏・冬は長野を中心に生活していました。そのせいか，雪や寒さに対する不安は少しもなく，毎日富山大橋からの立山連峰のながめに感動しています。

趣味はスポーツ一般，なかでもサッカーとスキー，登山です。体を動かし，汗をかくことは，日々の研究，教育活動，生活のリズムを作り出してくれますし，悪魔の水もおいしくいただけます。(もっとも，悪友どもは，その目的を後者のみにみるものが，ほとんどですが)。目下のところ，ジョギングとウォーキング・サイクリング（通勤用！）の毎日ですが，富山の美しい自然に囲まれ，それでも結構満足しています。

中学以来，私学に育った私といたしましては，初めての国立ということでもあり，その環境に慣れるまでには，なお時間がかかりそうですが，今後ともよろしくお願いいたします。

新任の御挨拶

経済学部助手　松　井　隆　幸

今春より経済学部経済学科助手に赴任しました。

実は北陸地方へ来るのは生まれてはじめてなのです。高校までを瀬戸内の温泉町，大分県は別府で育ち，大学からの10年間をこれも南国の小都市，博多で過ごして参りました。従って富山に来る時は春なお厳しい寒さを予想して恐れていたのですが，逆に30度の熱風（あれが噂のフェーン現象でしょうか）の出迎えを受けて驚いています。

当面は助手ですので，学生の人達との接点が無いのが大変残念です。しかし一方では，学生のふりをして（若干無理がありますが）気楽に各所をうろついています。古本屋や自転車の多い富山の町も，また風情のあるものだと思います。米が驚くほどおいしく，また魚や酒も豊富ですので，教壇に立つころには肥満してしまうのではないかと心配です。

さて，私の専門は日本産業論です。“日本産業”と言いましても，最近の国際化の中では海外の産業と日本の，それも地方の産業とが直接に影響し合っています。例えば九州や北陸の産業の盛衰を語るにも，アジアや欧米との関係を抜きにはできません。世界から地域へ目まぐるしく頭を切り替えねばならない課題に，私自身がどこまでついて行れるか不安ですが，皆様の助力で少しでも前進できたら幸いです。

申し遅れましたが，土地・仕事ともに不慣れな私に協力して下さいました先生方，事務官の皆様，富山市の皆様方に，この場を借りてお礼申し上げます。学生の皆様とも一緒に遊べる，いや学べる日を楽しみにしています。

新任の挨拶

経済学部助手　池　田　公　司

4月1日付で経済学部経営学科の会計学スタッフの一員に加えさせていただくことになりました。3月までは，神戸大学大学院で会計情報システムに関する研究をおこなってまいりました。

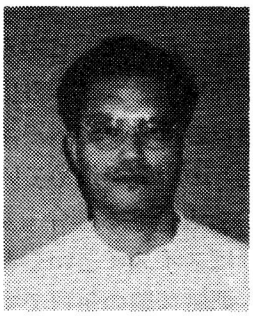
生まれは愛媛県松山市で，北陸の地で生活するのは今回が始めてです。これまで，富山に関しましては，小学校の頃，新田次郎の小説『神通川』を読んだことがあります。また高校の修学旅行で立山と黒部ダムを通ったことがありますが，もう随分前のことになります。

今回，神戸から富山まで車で来ましたが，北陸自動車道の富山インターを降りて，始めて富山市内には入ってみますと，信号機が原則としてタテ向きに取り付けられているのや，ほとんどの道路に融雪用の配水パイプが埋め込まれ，チェーンやスパイクタイヤのため路面に深い轍ができているのをみて，どうしても雪深い季節のことが連想されました。関西では，雪が降ることはあっても，積ることはめったにないため，積雪のことを思いますとやはり不安になりますが，他方では，好奇心も手伝って，富山の雪とはどういうものなのか，またどのくらい積るものなのか一度みてみたいという気持ちもありますので，ある意味では雪の季節の訪れるのがたのしみです。

今年度は講義の担当はございませんが，学生の皆さんとはいずれ講義でお目に掛かることになるかと思いますので，その節はよろしくお願いします。少しでもわかりやすい講義ができるよう努力いたします。未熟の身でございますので，先生方をはじめ事務官の方々にもいろいろとご迷惑をおかけすることになるかもしれませんが，研究と教育とに微力を捧げる所存でございますので，今後ともよろしくお願い申し上げます。

新任のごあいさつ

理学部教授　吉　田　範　夫



此の度，数学教室の一員に加えさせて頂くことになりました。応用解析学及び電子計算機論講座に所属しております。研究分野は微分方程式論で，特に定性的理論に興味を持っております。

前任地は岩手県盛岡市で，かって＜日本のチベット＞と呼ばれたこともありました。と過去形ではなく，最近，ある会社社長の「熊襲」発言があり問題になりましたが，未だイメージが暗いようです。熊襲の地とは九州南部を指し，東北地方に対しては「蝦夷の地」と言わなければならなかった訳ですが，確かに，岩手県の舗装道路を車で走っていて，突如として＜熊出没＞の標識が表れたりすると，ドキッと一瞬緊張した覚えがあります。その意味では，「熊襲の地」といっても間違いはないのかも知れません。ただし，岩手県の名誉のために申し添えますと，過去に何人かの首相（原　敬，斎藤　実，米内光政，鈴木善幸）を輩出し，文化水準は高く，緑に囲まれたすばらしい所です。

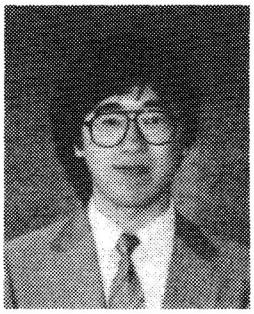
私のふるさとは，富山と隣県の信州です。私自身は，どちらかというと，硬派に属すると思っておりますが，なぜか出身地は長野県のコウショクシ（更埴市）です。＜森の杏＞や＜姨捨山の田毎の月＞で御存じの方もおられるでしょう。後に，広島に数年いましたが，富山の市電に乗っていますと，広島の市電に乗っているような感覚にとらわれることがあります。市電の走っている都市が減っているからでしょうか。

富山に来て気に入っていることの一つは，私の研究室から，椅子に座ったままで，アルプスの山々（剣岳，立山，薬師岳等）を望むことができることです。１２年程前の夏，立山に登ったことがあり，残雪で斑模様になった室堂を，今でもはっきりと思い出すことができます。立山を見る毎に，その室堂の姿が目に浮かびます。

今後，数学教室の皆様をはじめ，富山大学の皆様の御指導を受けつつ精進したいと思いますので，よろしく御願い致します。

新任のご挨拶

理学部講師　藤　田　安　敬



この４月１日理学部数学教室に着任しました。倶梨伽羅峠付近を越えて，富山県へ入るときはまた新しい関を越えるのかと感慨もひとしおでした。十年前と同様今回も月性の詩『壁に題す』を思い返しました。この詩は学問に志を立てて自分の故郷の関門を出たなら，学問が成らなければ決っして故郷へはもどらないという決意をうたったものです。十年前といったのは，大学入学のため，きびしくつらかった高校生活に別れを告げ白河の関を越えはるかなるみちのくにとびこんだときのことです。私にとっての大学生活（仙台および神戸）は数学とクラブ活動であるソフトボールで過ごしたといってよいと思います。ソフトボールは全国学生選手権大会にまで出場できて十分燃焼できましたが，数学はようやく基礎が固まりつつあるという段階かもしれません。これからはこの富山で自分の数学を確立したいものです。

私と富山の接点は昭和61年の第58回選抜高校野球大会に始まったのかもしれません。そのとき甲子園球場で新湊高校対京都西高校の試合を見る機会にめぐまれました。非勢を耐えに耐えて延長の末，新湊高校が勝った試合は新湊の酒井投手のはにかんだ笑顔とともに忘れられないものです。雪国のつらさを乗り越え健斗する彼らの姿はこれからの自分のよい目標になることでしょう。

以上であいさつとかえさせて頂きます。今後ともよろしくお願いします。

新任のごあいさつ

理学部助手　菊　池　万　里

この4月，理学部に着任しました。名前だけみると女性のように思われますが，「万里」と書いて「まさと」と読みます。さて“この4月に着任”としましたが，実は富山に来て7年目になります。富山大学で学び，富山大学に着任という形になりました。従って富山の生活については心得ているつもりです。大雪もフェーンも経験済みです。もっとも初めて会う人には「出身は埼玉です…。」とだけ云うことにしています。その人なりに“富山”のアピールをしてくれるのを，こっそり楽しんでいる，と云ったところでしょうか……。

大かたの人は，富山の自然環境，その他諸々について惜しみなく語ってくれます。ただ，ひとつ不満を云えば，多くの人が埼玉と富山を（埼玉に対する一般的なイメージをもとに）比較して「富山は埼玉より…。」という言い方をするということです。彼方に，赤城，浅間，妙義の山々を望むネギ畑の中を飛び回って遊んだ経験のある私にとっては，富山も埼玉も天候以外はさほどかわらないといったところなのですが…。

現在，確率論（確率過程の理論）の研究を進めていますが，何分にも力不足をひしひしと感ずる昨今です。学生のうちにもっと勉強しておけばスイスイといくところを，もたついてしまったり，悪戦苦闘の毎日です。しかし，それ故に，学生にとって何がわからないか？ということに関しては（他の先生方より）よくわかるつもりです。また歳も学生に近いということで，学生の立場に立った授業なりセミナーなりができれば…と思う次第です。もち論，研究にも，微力ではありますが，全力投球の覚悟でおります。何分にも不慣れな為皆様にはご迷惑をおかけすることも多々あると存じますが，何卒ご指導の程よろしくお願い申し上げ，新任のごあいさつとさせて頂きます。

新任の御挨拶

理学部助手　田　村　典　明

この4月から生物学教室生理学講座に赴任して参りました。専門は，一応，植物生理学で，緑色植物の光合成電子伝達の構造と機能，最近は特に“植物はいかに酸素を生成するのか”というテーマを扱っています。しかし，生理学の前についている植物というのは名ばかりで，そこらに生えている植物の名前は殆んど知らない，“生き物解体屋”の生化学・生物物理屋です。

この度，縁あって富山大学に奉職したわけですが，これまで，大学の増定員・増学科ラッシュの最中に大学に入った者の典型的な歩みをたどってきました。私が大学院に入学した当時，研究室はドクターコースに5人，マスターコースに4人という最低の陣容でした（あくまでも就職を考えた時の話ですが）。その後は，慣習通り今は古語になりつつある(?)オーバードクターとやらを経験して，アメリカ・ケンタッキー大学にポストドクとして3年強，そして埼玉の理化学研究所の国際フロンティア研究員として2年弱，流浪の旅をしてきました。といっても悲壮感はなく（皆無といったら嘘になりますが），なかなか楽しく貴重な生活を送りました。なかでも，ケンタッキー時代が今でも鮮烈なイメージで残っています。ケンタッキーといったら皆さんはケンタッキーフライドチキンやバーボンを連想されるでしょう（事実，ケンタッキーフライドチキンの本部は，州西部のケンタッキーダービーで有名なルイビルにあり，店頭に飾ってある人形・カーネルサンダースの奥さんも健在で時々本社に足を運ぶそうです）。この州は，Blue grass country と呼ばれるように，アパラチア山脈の西側に緑濃い丘陵地帯が広がり，そ

こに白い柵で囲われた競争馬の放牧場が点在する景観は圧巻です。この雑音のない恵まれた環境で，優れたボスから科学に対する真摯な態度とcrazinessを学びました。それまでいたって日本人的な変な謙虚さを身につけていた私にとって，無知を恐れない行動をともなった前向きの思考様式というのは衝撃的でした。私生活の面でも，単身で渡米し，この間，結婚・子供の誕生と人生の重要な節目を経験しました。またボスの家族をはじめ，日本人家族を含めた数家族との親戚みたいなつき合いから，人間同志の深い情愛の交流を体験しました。

これらの得難い財産を大切にして，"Study hard and play hard"をモットーに，与えられた環境で最大限の成果をあげるよう努力したいと思います。よろしく御指導の程，お願い致します。

着　任　所　感

工学部助教授　西　村　龍　夫

今年の4月より広島大学からこちらへ着任しました。富山は初めてではなく，昭和50年より2年間修士課程の学生としてお世話になり，いろいろなつかしい印象が残っています。

私の専門は化学工学です，特に今までは流れを伴なう固一液間の熱及び物質移動に関する研究を行なってきましたが，今後は視点を変えて固一液間の相変化におけるミクロ的な熱及び物質移動について研究を推進してゆこうと考えています。このテーマは積雪地帯の除雪・凍結といった日常的問題から半導体製造過程の一つである単結晶成長といった新技術問題まで，多くの分野に関わっています。

まだ若いつもりでいますので，新しいものに挑戦していく態度でがんばろうと思っています。よろしくお願いいたします。

個性を磨きましょう

工学部助手　高　井　正　三

昭和48年に本学文理学部理学科（物理学専攻）を卒業して，当時の『計算センター』に文部技官として就職しました。今年3月までの満15年間は，オペレーション，プログラミング，システム管理及びプログラム相談等の仕事をやって来ました。そして今年，工学部助手に採用され，引続き情報処理センターに勤務することになりました。これからは主として『システムの研究開発』の仕事を担当することになります。

学生時代の話になりますが，学部4年の時の研究テーマは『電子線回析による結晶構造の解析』で，毎日のように単結晶（？）を作っては，それを電子顕微鏡で観察していました。実験が好きで，しばしば徹夜で実験をやり，一人暗室に入っては大量の電顕フィルムを現像し，焼付けをしました。卒業論文の半分以上を写真で埋めたのを，今でも覚えています。

ところで，入学した頃はまだ電卓もなく，皆筆算をやっていました。関数の計算には数表を，大よその数値は計算尺を使って計算していました。4年の時初めて大きな光電管表示の電卓，それも四則演算しかできないもの，を使うことができました。その頃同じ研究室の友達は，計算センターへ行って，非晶質に関する計算をALGŌLという言語でコーディングし，計算をやっていました。その友達にプログラムの説明を聞きましたが，当時はまったく理解できなかったことを覚えています。結局，『プログラムなんて，自分でやらなきゃ理解できないもの』というのが実感でした。

そんな私の仕事が，電子顕微鏡から電子計算機になり，今年で16年目に入ったというわけです。この間，コンピュータは大きな変遷を遂げて，私達の身近な存在となりました。今ではどこの研究室へ行ってもPCがワープロを動かし，プリンターの音が聞こえます。かっては自由に使えなかった計算機も，今は学生一人ひとりが自由に計算機を使用できる環境になりました。あのMicrosoft BASIC を作ったBill GatesやMultiplanを開発したCharles Simonyi の学生時代がそうであった様に，Hungry 精神でマシンを使用していけば，必ず将来プラスになるものがあります。本学の学生・院生が情報処理センターのコンピューティングシステムを大いに活用し，次代の開拓者として活躍してくれることを期待しています。

私は個性的な人が好きです。人は誰しも生まれながら違っています。何も皆が同じ服装をして，同じような行動をとることはないと思います。人は皆，個性と個性をぶつけ合って生きていくものだと思います。

個性を磨きましょう!!　互いに語り合い，肩を叩き合って生きた，あの青春の日のために!!

新　任　の　挨　拶

工学部助手　山　田　昌　樹

4月1日より，工学部工業化学科の助手となりました。講座は有機合成化学で，学生時代の専門分野をそのまま続けることになりました。大学，大学院と，昨年度まで九年間，東京におりましたが，再び故郷の富山にもどって来て，はじめて給料の出る，すなわち責任の重い仕事というか，立場になった次第です。着任してから早いもので二ケ月以上になりましたが，印象として残ったのは，（他の学部はまだわかりませんが，少なくとも工学部に関しては）学生の教育に熱心だなということです。学校である以上，当り前といえば当り前ですが，大学というところは，その使命は教育と研究の両方にあるのであり，そのバランスが大切なものです。自分の最も得意な分野でおこなう研究とは異なり，教育は，必ずしも興味を示してくれるわけではない学生相手の，あまり気のりしない仕事であるとして，本音としてあまり重要視しない傾向が少なからずある中，富山大学はよくバランスがとれているように見うけられます。幸い（？）私はまだ講義は担当しておりませんが，講座内で頻繁にゼミ形式の勉強会があり，学生諸君も熱心で，自分の学生時代の不勉強のつけが回ってきて，「教える」ことに耐えられるように，必死に自分で勉強する羽目に陥っております。願わくは，こういった活力を，研究，すなわち新しいものをつくり出すことにうまく結びつけてゆきたい，と思うのです。幸い，富山県は工業の盛んなところであり，また今年から地域共同研究センターが開設され，より直接的な形で，今，工学部では，さらに世界では何が必要とされているか，知ることができるわけです。

教育と研究，一方だけでも大変なことは充分に自覚しておりますが，何とか両立させてゆきたいと思いますので，何とぞよろしくお願いいたします。

新任のごあいさつ

教養部講師　中　　純夫

大阪生まれの作家，田辺聖子さんは「人間のあこがれの最たるものは，都会人の“田舎恋い”ではなかろうか。」と書いておられます。町の暮らししか知らない人間の，田舎の自然や田舎の暮らしに対するあこがれは，時にドラマチックでさえある，というわけです。

富山のことを“田舎”扱いなどしたら，大方の叱責を蒙ることでしょう。私は大阪の岸和田という城下町に育ちましたが，岸和田はせいぜい南海電車の特急が停車する程度で，決して都会と呼べる代物ではないし，かく云う私自身，都会的洗練とは凡そ対極をなす種類の人間でもあり，都会人という柄ではありません。

けれども，友人達との会話の中で出身地が話題となって，北海道・九州といった地名が出ると，いかにもその人達にはふるさとが有るという感じがして羨ましく，「中君は？」「大阪」では味も素っ気もないなあ，というのが偽らざる心境でした。

この度，富山大学に奉職することとなり，その意味でも私は永年の夢をかなえることができた思いで一ぱいです。今度は逆に「富山は米も酒も魚も旨い」と人から羨ましがられる立場となり，何だか自分が手柄でもたてたかのような得意な気分です。

出身大学では中国哲学史を専攻し，主に宋明の思想史を研究致しております。何度か実際に授業を担当してみて，ふだん自分が関心を持っているテーマを，学生諸君にも興味深い話題として提供することが如何に困難であるかを痛感しています。講義のたびに自分の未熟さを思い知らされる日々ですが，授業という場を通して，私自身も学生諸君と共に学んでいかなければ，と考えております。

研究室にいると，いろんなサークルの練習する音や声が聞こえてきます。月並みな言い方ですが，何事かに打ち込んでいる若い人達の真剣な姿にはまぶしいものを感じます。そういうまぶしさを，自分の授業に耳を傾ける学生諸君にも感じとることができるような，そんな授業に少しでも近づけるように，これからも努力していきたいと思います。

タンザニア調査の旅から

人文学部教授　富　川　盛　道

昨年の１２月はじめ，アフリカの「海外学術調査」に出かけて，今年の３月なかばにかえってきました。

わたしたちの文化人類学研究室では，前任の和崎先生もそうでしたが，わたしも同僚の赤阪先生も，海外調査のフィールドは，もっぱらアフリカです。今回は，調査期間のほとんどを，東アフリカのタンザニアでついやしました。これまでタンザニアには，なん回かやってきましたが，最初は１９６１年－タンザニア独立の年で，内陸北部のダトーガ牧畜民のあいだで，調査生活を経験しました。これが，わたしのアフリカ研究のスタートですので，この国にもどると，格別の感があります。今度の調査では，むかし知った牧畜の村や農牧の村をたずねて，タンザニア２０年の変化の様相にふれて見たいというのでした。

隣国ケニヤとの国境にちかい町，アルーシャ。ここが調査の出発点で，ランドローバーを借り，運転手をやといました。商店街をあるくと，社会主義国タンザニアが，ちかごろ統制経済に修正をくわえて以来，物が出まわってきたように見えます。しかしインフレで値段がたかく，都市の庶民にはつらいところです。しかし，街頭で，商店で，ホテルで，市場でとびかようスワヒリ語（東アフリカ土着の地域共通語）の喧騒の中に身をおくと，庶民のおとろえぬ活気と，多民族・多言語の人々がスワヒリ語でむすばれた，一種のユニティを感じさせます。

わたしの運転手も，英語はできませんが，スワヒリ語はペラペラ。軍隊を３０年つとめあげた退役曹長で，年令６０才の老運転手。昔日の健康をうしなったわた

しには，恰好の同行者です。老兵ふたり，つかれたらストップ，元気が出れば前進，夜は民家や旅宿にとまって，内陸サバンナの旅をつづけました。時はまさに雨期と言うのに雨がおくれて，農民も牧畜民もこまっていましたが，老兵たちの旅はたすけられたようです。

サバンナの村々の中で，一番ながく滞在したのはやはり，むかしわたしがくらした，エヤシ湖東岸の，あかるい日ざしのアカシア・ツリーの森と草原にかこまれた，ちいさい集落です。かつては，半遊動的なウシ牧畜民のダトーガの住居だけが散在していたのが，１９７０年代後半のコンミューン方式の村づくり政策の推進で，周辺の農牧民もタマネギ栽培の換金農家も一緒にあつめられ，軒をつらねたライン状村落（街村）が出来あがりました。このなかば強制的な方式は，生産力の向上につながらず後退しましたが，人々はコンミューン方式にこそ抵抗感を持っていたものの，この集落形態だけは，解体しませんでした。さすがにダトーガは，ウシをつれてブッシュの方に分散していますが，それでも集落はすぐ目の前です。

どうやら人々は，ことなる言語集団と混住するわずらわしさと同時に，その便利さと快楽を味わうことを知ったのです。今ではダトーガの老婆も，スワヒリ語であいさつします。コンミューンの物資配給所の設置のあと，数年まえから，雑貨屋，粉引き屋，ビール・バー，肉屋，ホテルまでが急速に出現しました。これはもう，都市的集落が出来あがったということです。ダトーガ牧畜民の青年たちは，ポーチ（財布）を常時持参するようになりました。それまでは，定期のウシ市の日に，金を着物のはしにくるんで，持ちあるくだけでした。多様な欲望，多様な人間関係にうごかされながら，滲透してゆく貨幣経済と折り合いをつけるくらしが，促進されているのでしょう。おそらく，このサバンナのウシ牧畜民は，ながい目で見れば，定着的農牧へのトライ・アンド・エラーをとおして，都市との共生を模索してゆくと言うのが，わたしの得た見とおしでした。

しかし，現在の社会過程に足をとゞめてながめるなら，村落の風景が，日常生活が，かわったからと言って，本当にかわったと言えるのでしょうか。ある日のことでしたが，夜もふけて，ビール・バーの人声と粉引く機械の音のあいだをぬって，とおくブッシュの方から，かすかに歌声がきこえます。わたしにはそれが，ダトーガ牧畜民の女たちの歌であることがわかりました。幸運にもサバンナのライオンを射とめてた若者が，親族の家にとまりに来て，女たちがかれの武勇をたたえているのです。明朝，彼は宿の主からウシをあたえられるでしょう。こうして，かれはウシをもとめる旅をつづけてゆきます。これは戦士の文化と言う以上に，血縁集団のウシの交換や，富の平均化によって，集団をささえようとする社会の体系にかかわるのです。この歌ごえは，いまのところ，かれらの社会が本質的には，かわっていないことを，あかししているのです。

わたしは，この歌を聞きながら，かれらが外部と折り合っていることを，あらためておもうのでした。しかし，この外部――農村も都市も，今はダトーガ牧畜民の世界の一部であることを，みとめておかなければなりません。わたしは１０年・２０年たってもなお，人々は今夜の女たちの歌を聞くことが出来るのだろうかと，おもわずにはおられませんでした。そして，翌日，わたしはエヤレ湖東岸を去りました――老運転手とともに。

人文学部の特定研究

人文学部教授　秋　山　進　午

人文学部で特定研究がスタートしたのは1980年(昭55)からです。3年計画の共同研究で，いま進めている研究は，最初の“日本を起点とした朝鮮・中国・ソ連の地域的特性に関する共同研究”（『富山大学人文学部紀要』第7号に報告)，2回目の“東アジア世界の生成，発展および他文明との関係についての共同研究”（『富山大学人文学部紀要』第11号に報告)，につづく3回目の特定研究で，今回のテーマは“日本・東洋と西洋における文化構造の比較と文化交流に関する総合的研究”です。

人文学部特定研究の特色

人文学部の特定研究には幾つかの特色があります。第一に，人文学部特定研究は，人文学部が毎年概算要求を続けている学内共同利用施設「東アジア研究センター（仮称）」の研究を実質的に先取りして行なっていることです。ご承知のように，1977年（昭52）文理学部を改組して発足した人文学部は，他大学と異なる特色として，人文諸科学のうち，とりわけ東アジアに関する部門に重点をおき，日本はもとより，日本海をとりまく朝鮮，中国，ソ連の言語・文化・歴史の学科目を揃えて発足しました。「東アジア研究センター」はこの，他大学に無い特色を，教育のみならず，研究面においてより一層の充実，発展を期すべく，その設置を要望しているものですが，厳しい情勢の中で，容易に実現には至っておりません。しかし，私たち人文学部の教官は，「東アジア研究センター」設置のあかつきには，そこで行なわれる筈の研究テーマを実質的に進める方策として，特定研究の場において研究を進めることを申し合わせ，いま3回目の研究活動に入っているのです。

もう一つの特色は，この研究を教官多数の共同研究によって進めていることです。わが国と深い関連をもつ朝鮮，中国，ソ連の東アジア地域の文化については個々には伝統をもったすぐれた研究業績がみられるのは勿論ですが，それを環日本海文化圏として把握し，統一的に考察するうえでは，個々の学問領域に閉じこもることでは検討が難しく，そのため，それぞれの研究者による研究領域を越えた共同研究によって，学際的に研究を進めることが重要となります。日本を起点として朝鮮，中国，ソ連の地域研究からスタートした共同研究は，回を重ねるごとに範囲を広げ，参加教官を増やし，いまの共同研究には37名の人文学部教官が参加されているのは，この共同研究の意義を互いに理解し合っているからに他なりません。

特定研究テーマ

第3回目の特定研究テーマは，前2回の共同研究の基礎の上に立ったものであることはいうまでもありません。環日本海文化研究からスタートした特定研究課題は，続いて東アジアへ対象を広げ，いまの第3回のテーマはヨーロッパ諸言語・文化研究の教官多数の参加を得て，日本・東洋と西洋における文化構造の比較と文化交流を総合的に研究しつつあります。一足早く近代ヨーロッパ文明を取り入れたわが国をはじめ，東アジアの国々は，それぞれの自国の民族と文化の伝統の上に立って独自の“現代化”を模索しつつあります。他方，ヨーロッパ諸国にも東洋の叡知の学びなおしが浸透し始めています。物事の捉え方や，自然と人間，家族や集団のあり方とその問題点などを研究することによって，東洋と西洋の互いの文明の特色を明確にしつつ，それぞれの固有な文化構造の比較と文化交流の実際を把握し，本源的な“現代”を探求しようとするのが本特定研究の狙いなのです。

研究の進め方

共同研究は，以上の観点から研究テーマをA「歴史学，哲学から見た日本・東洋と西洋の文化構造の比較研究」，B「文学，言語学からみた日本・東洋と西洋の文化交流の研究」に大別し，それぞれをさらに4～6テーマに細分しています。Aでは東洋と西洋の文化の基礎構造を家族・コミュニティー，都市空間，都市と村落の技術の諸観点から分析を行ないます。Bではとりわけ，本学ヘルン文庫を活用し，ハーンが東洋，とりわけ日本に見出した個有の文化価値を検討し，それを軸として，語学・文学の両面において文化交流の実際と，そこに明らかとなる個有の文化の意義を明確にしようとするものです。

研究を進めるには，以上の細分した班研究によって個々の問題を学際的に深めてゆくと同時に，全員による共同研究会を並行して開催し，各班での研究成果をめぐる共同討議で問題の深化を計っています。また，本学に来学された様々な分野の専門研究者を招いて報

告を受け，それをめぐっての意見交換も実施しています。

研究成果

いまの特定研究の成果は，今年度末に公刊する予定の研究報告書において発表されるので，精しくはそれを待ちたい所ですが，これまでの共同研究によって，固有な文化を生み出した諸社会の文化構造の再認識と，その諸社会の間の文化交流に際して生じるインパクトの受け入れないし拒否に，様々な動態が存在することを突きとめています。

Aの研究では技術史や家族・コミュニティーの研究が日本の“現代社会”の背景を示唆するものとなりましょう。このことは日本の経済力の背景として，貿易摩擦の対象である諸外国に，また，わが国の経済成長を模倣しようとする諸国にも重大な関心がはらわれる課題であるでしょう。

Bの研究では本学ヘルン文庫の研究が軸となります。ハーンの蔵書を通してハーンの文学・思想を解明する手懸りを得やすい利点を活用し，なぜハーンが東洋，とりわけ日本の個有文化に価値を見出したかを今日的観点から明らかにされることが期待されます。この観点を他のヨーロッパ文明と日本・東洋文化の関係にも適用することが可能か否かの検証も一つの課題です。

私たち人文学部の特定研究は，このような今日的関心にも何らかの答を見出し得る“現代”の研究に密接に結びついた研究課題なのです。

留学生活で感じたこと

外国人留学生（工学部） 呉　　為　民（中国）

私は，工学部教官らのお世話で，日本に留学することができるようになり，昭和62年3月31日に日本の土を踏みました。そして，一年後さらに勉強を続けるために，今年4月大学院に入学しました。これまで日本で一年余滞在して，いろいろなことを感じました。その中より一つ，二つを学園ニュースの一隅を借りて，筆にまかせて書きたいと思います。

日本語は私が大学時代に外国語として学びました。週二回の授業を一年半続けたのです。日本語は難しく，国で勉強した日本語は，日本では使いにくいという外国人が多いのです。私もその中の一人であると思います。例として，初めて日本に来た頃，持ってきた国のお土産を日本の友人に渡すとき，私はできるだけお土産のことを詳細に説明しましたが，日本では，友人からプレゼントをいただく時，「つまらないものですが」と言われ，不思議でした。また，ある日，友人のお宅で，奥さんが私たちに「お寒くありませんこと？」と二度も言ったあと，しばらくすると，奥さん自身がセーターを着たので，私たちは，さきほどの言葉の意味がやっとわかったのです。それは，日本語の難しさは，自分の考え方を相手におしつけることを避け，自分の考えを言わず語らずのうちに相手にわからせる。すなわち，口に出して言う言葉よりも，言わずにおく言葉の意味の方が重要だと考えているのではないでしょうか。

日本では外来語が増えていることも，日本語を難しくしている原因であると思います。中国で日本語を勉強しているとき，日本語の言葉には，すでに日本語になってしまっている漢語と，外来語とがあることをよく知っていました。それでも，外来語がこんなに多いとは日本に来てからわかったのです。特に，和製英語が多くて，ほんとに困ります。ある店で「ワン・タッチ・ボン」という傘を見ましたが，いくら辞典で調べても分りませんでした。友人に聞くと，「ちょっと押したら開く傘」という意味であることが分りました。面白いですね。

外国語上達のレベルには三つの等級があると聞いています。三級の人は，外国語で普通の会話ができ，二級の人は，外国語で勝手に冗談ができ，一級に達する人は，外国語でべらべらとけんかができるのだそうです。私の目標は，二級までになりたいのです。というのは，日本では一級のレベルは必要がないと思うからです。

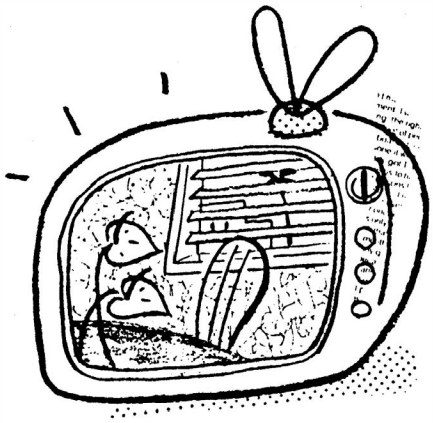
日本に来て，最初の二・三カ月ぐらいは，生活習慣が違うので，なかなか慣れませんでした。一番耐えられなかった事は，昼休みの時間が短いことです。中国では，大学や政府機関などでは，日本より長い昼休みがあります。毎年5月1日から9月31日までは，勤務時間は午前7：30～11：30，午後は14：30～18：30で，昼休みは3時間あります。10月1日から次の4月30日までの勤務時間は8：00～12：00と14：00～

18：00で，昼休みが2時間です。したがって，昼食をとってから，横になって休む時間は1時間以上あります。私は毎日6時ぐらいに起きて，夜中0時ぐらいに寝ました。お昼に眠られますから，一日中元気に働いていました。中国では，長い昼休みがあるため一日を二日間に分けて使うような効果があると思います。富山大学では毎日昼食が済んでから，私は眠くてなりませんでしたが，同じ研究室の院生が一生懸命に勉強しているのを見ると，私は冷水で顔を洗って勉強を続けました。「郷に入れば，郷に従え」を実行し，段々と慣れてきたのです。

日本語を習う方法の一つとして，よくテレビを見ることは留学生たちに利用されています。私はＮＨＫの「銀河テレビ小説」，「面白ゼミナール」，「連想ゲーム」，「のど自慢」などの番組がとても好きで，ニュースは必ず見る番組です。その外に，テレビコマーシャルも好きです。この放送がすきだというのは，テレビを見てすぐに買いに行きたくなるというのではなく，またその物に関心があるというのでもなく，コマーシャルの構成法，表現法，音楽などがとても興味があり，魅力的で，面白いからです。

富山に来てから，日本各地の見学に何回か出かけました。近代建築がいっぱいの東京，歴史を再現する大阪城，明治庭園を代表する平安神宮，世界最大の木造建築である東大寺，平和都市である広島市，日本三景の一つ宮島，木曽路の伊勢屋民宿，野麦峠の自然の景色，どれもみごとな風景があり，そこにはいつも親切な日本人がいました。見学によって，日本のいろいろな地域の文化や風土をわずかながら理解することができました。日本は大量に外国の文化や技術を取り入れて，それを日本の工業技術の発展に活用し，貿易市場を活発にさせ，経済大国になりながら，日本民族の伝統をそのまま保っていることに対して，ほんとに羨ましいです。現在，わが国では，政治体制，経済体制を改革して，四つの現代化を実現し，中国を繁栄と豊かな国家になるように中国人も一生懸命に努力しています。留学している私は自分の専攻のほかに，日本の近代発展史，日本に関する貿易，日本の民俗など良い事なら，なんでも吸収したいと思います。

富山大学に来てから，指導教官の高辻先生，伊藤先生は勿論，学業上のこととか，生活上のこととかいろいろな方面でお世話になっています。他の講座の先生方，学務係の方々にも親切に手伝っていただいています。感謝の気持でいっぱいです。



学生部だより

就職協定の遵守について

来春卒業予定の皆さんは，将来の進路についていろいろとお考えのことと思います。

既にご承知のとおり，昭和63年度の大学及び高等専門学校卒業予定者に係る就職協定期日については，「就職協定協議会」において次のように決定されております。

①企業等の説明開始　　8月20日

②企業等個別訪問開始　9月5日

③採用内定開始　　10月15日

これらの期日は，学生の最終学年の学習にできる限り支障を与えず，また，就職の機会均等・公平性を確保するという観点から定められたものです。

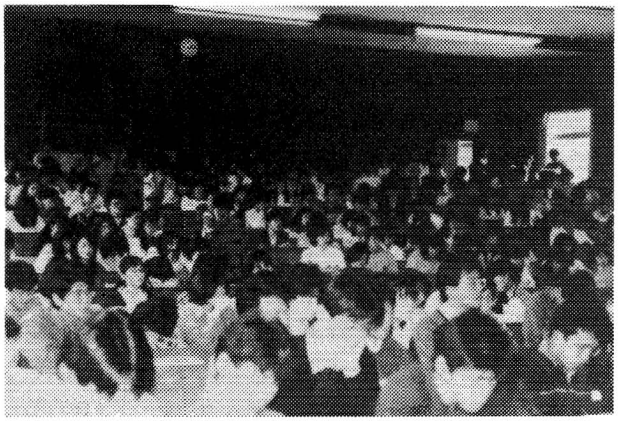
皆さんも，この趣旨を十分理解されて，この決定期日を遵守されるようお願いします。

就職に関する講演会について

5月11日(水)に教養部4番教室で就職に関する講演会が開催されました。

当日は，㈱リクルート北陸支社長の伊藤弘明氏が「民間企業の採用動向等について」，また富山県教育委員会教職員課主幹の紺道三郎氏が「教員需給の現況および受験にあたっての心構え等について」，それぞれ講演されました。

この講演会には，4年次生を中心に延約600名がメモをとる等，熱心に聴講し，盛況のうちに終了しました。



熱心に聞き入る学生たち

◇ 昭和63年度富山大学都道府県別入学者数調

	人文	教育	経済		理	工	計 (%)
			昼間主	夜間主			
北海道	4	1	3		4	2	13(0.9)
青森	1				3		4(0.2)
岩手							
宮城			1				1(0.1)
秋田	1		1		1		3(0.2)
山形		1	2	1			4(0.3)
福島	1						1(0.1)
茨城	1						1(0.1)
栃木	2	1		1	2		6(0.4)
群馬	2	2	3		1	3	11(0.8)
埼玉		1	3		1	6	11(0.8)
千葉			2		3		5(0.3)
東京	1	3	2	2	7	2	17(1.2)
神奈川		1		1	2		4(0.3)
新潟	3		5	1	1	5	15(1.0)
富山	92	183	136	39	71	82	603(41.8)
石川	49	48	75	4	32	69	277(19.2)
福井	3	11	25	2	9	3	53(3.6)
山梨	2	1	2		2	3	10(0.7)
長野	3	5	6	2	9	16	41(2.8)
岐阜	4	9	32	2	14	29	90(6.2)
静岡	2	1	5			6	14(1.0)
愛知	8	4	39		15	72	138(9.5)
三重	1	2	5		2	1	11(0.8)
滋賀		3	3		1	3	10(0.7)
京都	1			1	2	9	13(0.9)
大阪	3			1	7	12	23(1.6)
兵庫	1	1	10	2		11	25(1.7)
奈良	1		1		4		6(0.4)
和歌山	1				3	2	6(0.4)
鳥取						1	1(0.1)
島根	1		1				2(0.1)
岡山		1	1		1		3(0.2)
広島		1	2			1	4(0.3)
山口			1				1(0.1)
徳島				1			1(0.1)
香川					1		1(0.1)
愛媛		1				3	4(0.3)
高知							
福岡	1		3				4(0.3)
佐賀							
長崎					2		2(0.1)
熊本							
大分				1			1(0.1)
宮崎	1		1			1	3(0.2)
鹿児島							
沖縄							
計	190	281	370	60	200	342	1,443(100.0)

◇ 昭和62年度卒業生進路（就職）状況

昭和63年5月1日現在

学部	学科・課程 ＼ 項目 性別	卒業者数 男	卒業者数 女	就職希望者数 男	就職希望者数 女	就職者数 男	就職者数 女	就職未定者数 男	就職未定者数 女	就職率(%) 男	就職率(%) 女
文学部	人人文学科	35	48	31	45	25	38	6	7	80.6	84.4
	語学文学科	12	74	10	71	9	59	1	12	90.0	83.1
	計	47	122	41	116	34	97	7	19	82.9	83.6
教育学部	小学校教員養成課程	29	118	28	118	25	91	3	27	89.3	77.1
	中学校教員養成課程	14	24	14	24	12	17	2	7	85.7	70.8
	養護学校教員養成課程	1	19	1	19	1	15		4	100	78.9
	幼稚園教員養成課程		29		29		28		1		96.6
	計	44	190	43	190	38	151	5	39	88.4	79.5
経済学部	経済学科	105	12	101	12	100	12	1		99.0	100
	経営学科	70	29	67	28	67	28			100	100
	経営法学科	39	7	36	6	36	6			100	100
	計	214	48	204	46	203	46	1		99.5	100
理学部	数学科	11	11	7	10	7	10			100	100
	物理学科	36	3	24	3	24	3			100	100
	化学科	12	18	8	16	8	16			100	100
	生物学科	16	8	14	7	14	7			100	100
	地球科学科	25		14		14				100	100
	計	100	40	67	36	67	36			100	100
工学部	電気工学科	54		46		46				100	
	工業化学科	42	9	34	9	33	9	1		97.1	100
	金属工学科	45		36		36				100	
	機械工学科	45		34		33		1		97.1	
	生産機械工学科	41		31		31				100	
	化学工学科	39	1	32	1	32			1	100	0
	電子工学科	34	1	27	1	27	1			100	100
	計	300	11	240	11	238	10	2	1	99.2	90.9
合計		705	411	595	399	580	340	15	59	97.5	85.2

◇ 昭和62年度卒業生産業別就職状況

昭和63年5月1日現在

産業別 ＼ 学部		人文学部	教育学部	経済学部	理学部	工学部	合計
農・林・漁業					3		3
鉱業							
建設業		2	2	10	1	5	20
製造業	食料品・たばこ製造業	2		4		5	11
	繊維工業			2		6	8
	衣服・その他の繊維製品						
	出版・印刷同関連産業	8	4	3		2	17
	化学工業	5		5	13	8	31
	石油製品・石炭製品						
	鉄鋼業				3	2	5
	非鉄金属製造業	3		2		9	14
	金属製品製造業			3		19	22
	一般機械器具		1	3	5	21	30
	電気機械器具	2		3	6	73	84
	輸送用機械器具			3		24	27
	精密機械器具				3	5	8
	その他の製造業	4		9	4	21	38
	計	24	5	37	34	195	295
卸小売	卸売業	3		9		8	20
	小売業	18	3	15	1	4	41
	計	21	3	24	1	12	61
金融保険業	銀行信託業	1		17		1	19
	証券業・商品取引業	2		15			17
	保険業		1	10		1	12
	その他の金融・保険業			19			19
	計	3	1	61		2	67

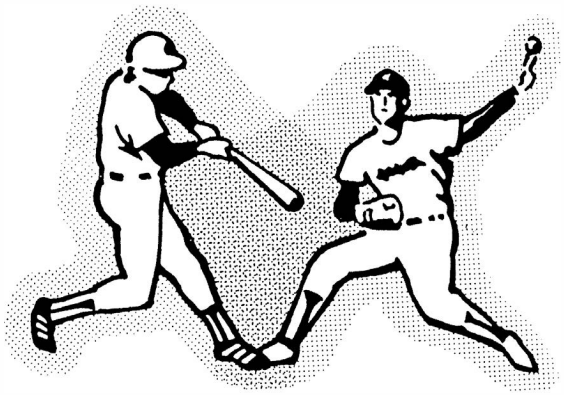
産業別 ＼ 学部		人文学部	教育学部	経済学部	理学部	工学部	合計
不動産業				2			2
運輸通信業	運輸業			10		3	13
	通信業			6	1	4	11
	計			16	1	7	24
電気・ガス・水道業		3		6		6	15
サービス業	医療保健業		2	1			3
	法務	1		1			2
	宗教	1					1
	非営利的団体	1	2	3			6
	情報処理	14	12	23	29	19	97
	その他のサービス業	17	6	11		1	35
	計	34	22	39	29	20	144
教育		29	147	1	23		200
公務	国家事務	5	3	14	2		24
	地方事務	10	6	35	3	1	55
	計	15	9	49	5	1	79
上記以外のもの				4	6		10
合計		131	189	249	103	248	920

規模別就職先		人文学部	教育学部	経済学部	理学部	工学部	合計
大企業	(従業員数300人以上)	41	13	132	49	196	431
中企業	(従業員数30～299人)	36	8	60	21	45	170
小企業	(従業員数29人以下)	10	7	7	3	4	31
企業以外		44	161	50	30	3	288

◇　第40回北陸地区国立大学体育大会は，北陸地区国立大学体育連盟及び福井大学の主催で7月10日（日）を中心に下記会場で開催されます。

種目		期日	開始時刻	競技会場	出場選手数	競技方法及び小種目
陸上競技	男・女	7月10日(日)	10:00	福井運動公園 陸上競技場	(1) 1種目2名以内（リレーを除く）ただし，1名のオープン参加を認める。 (2) 1人の出場種目は，3種目以内とする。（リレーを除く）	男子（トラック）100m，200m，400m，800m，1,500m，5,000m，110mH，400mH，3,000mSC，400mR，1,600mR， 〃（フィールド）走幅跳，三段跳，走高跳，棒高跳，円盤投，砲丸投，槍投，ハンマー投 女子（トラック）100m，200m，400m，800m，100mH，400mR 〃（フィールド）走幅跳，走高跳，円盤投，砲丸投，槍投
水泳	〃	7月10日(日)	開会式 終了後	福井大学プール	(1) 1種目3名以内 (2) 1人の出場種目は，3種目以内（リレーを除く）	男子 自由形　50m，100m，200m，400m，800m 背泳　100m，200m 平泳　100m，200m バタフライ　100m，200m メドレーリレー　400m リレー　200m．800m 個人メドレー　200m．400m 女子 自由形　50m．100m，200m，400m 背泳　100m，200m 平泳　100m．200m バタフライ　50m，100m メドレーリレー　400m リレー　200m，400m 個人メドレー　200m
野球	男	7月10日(日) (雨天の場合11日に延期)	10:00	福井大学野球場	25名以内	リーグ戦
準硬式野球	〃	7月9日(土) 〃10日(日) (雨天の場合11日まで順延)	13:00 9:00	福井医科大学野球場	25名以内	トーナメント戦　3位決定戦
庭球	男・女	7月8日(金)～10日(日) (雨天の場合11日まで順延)	開会式 終了後	福井大学 屋外球技コート	男子15名以内 女子　7名以内	団体（トーナメント戦）男子4複7単 〃（リーグ戦）女子2複3単
軟式庭球	〃	7月10日(日) (雨天の場合11日に延期)	9:00	武生市中央公園 庭球場	男子30名以内 女子20名以内	団体（点取りリーグ）男子　5チーム9セット 女子3チーム9セット 個人（トーナメント）男子15チーム以内9セット 女子10チーム以内9セット
バスケットボール	〃	7月10日(日)	10:00	福井運動公園体育館	男女共20名以内	トーナメント戦　3位決定戦
バレーボール	〃	7月10日(日)	10:00	三国町民体育館	〃 20名以内	トーナメント戦　3位決定戦（女子のみ）3セット
サッカー	男	6月26日(日) 7月3日(〃) 〃10日(〃)	10:00 〃 〃	福井医科大学 グラウンド	20名以内	トーナメント戦
ラグビーフットボール	〃	6月19日(日) 〃26日(〃) 7月3日(〃)	12:00 〃 〃	福井大学運動場	20名以内	トーナメント戦　3位決定戦（35－5－35）
卓球	男・女	7月10日(日)	10:00	丸岡町民体育館	男子20名以内 女子12名以内	団体（リーグ戦）男子4複7単　女子2複5単 個（トーナメント・シングルのみ） 男子20名以内，女子12名以内

種　　目		期　　日	開始時刻	競　技　会　場	出場選手数	競技方法及び小種目
バドミントン	男・女	7月　8日(金) 〃　9日(土) 〃　10日(日)	13：00 9：00 式終了後	福井大学第1体育館	男子26名以内 女子10名以内	団体（点取りリーグ）男子3複4単　女子2複3単 個人（トーナメント） シングルス　男子12名以内，女子10名以内 ダブルス　男子6組以内，　女子5組以内
柔　　道	男	7月10日(日)	10：00	武生市営武道館	17名以内	団体（点取りトーナメント）　3位決定戦 個人（トーナメント）　4　名以内
剣　　道	男・女	6月26日(日)	10：00	福井大学第1体育館	男子25名以内 女子　5名以内	団体（点取りリーグ）男子13名以内(登録15名以内) 女子　5名以内(登録7名以内) 個人（トーナメント）男子10名以内，女子5名以内
体　　操	〃	7月10日(日)	10：00	鯖江市立待体育館	男子20名以内 女子10　名以内	男子　床運動・鞍馬・平行棒・吊輪・跳馬・鉄棒 女子　床運動・段違平行棒・平均台・跳馬
ハンドボール	〃	7月10日(日)	10：00	北陸電力体育館	男子15名以内	トーナメント戦　3位決定戦 女子は，金沢大学と　富大学のエキジビジョン
ヨ　ッ　ト	〃	7月16日(土) 〃　17日(日)	9：00	三国ヨットハーバー	20名以内	総合と種目別（スナイプ，470級）スナイプ級2艇制 470級2艇制
空　手　道	男	7月10日(日)	10：00	福井医科大学体育館	20名以内	団体　自由組手（5組）リーグ戦 各試合2分3本勝負 個人　自由組手トーナメント戦 各校4名以内2分3本勝負 （引き分けの時　2分延長後判定）
弓　　道	男・女	7月　9日(土) 〃　10日(日)	9：00 式終了後	福井大学弓道場	男子14名以内 女子　6名以内	団体　男子8名（1人20射計160射） 女子4　名(1人20射計80射) 個人　団　体出場者及び男女8名 （20射中的中数の多い者）
自　動　車		（中　止）				
創作舞踊	男・女	7月　2日(土)	14：00	福井市営体育館		公開演技
少林寺拳法	〃	7月　9日(土)	14：00	福井大学第2体育館		公開演武（団体演武・組演武・個人乱捕りリーグ戦）
合　気　道	〃	7月10日(日)	14：00	金沢大学柔道場		公開演武
アメリカンフットボール	男	6月26日(日)	14：00	金沢大学運動場		金沢大学と福井大学のエキジビジョン



キャンパス樹木誌（3）

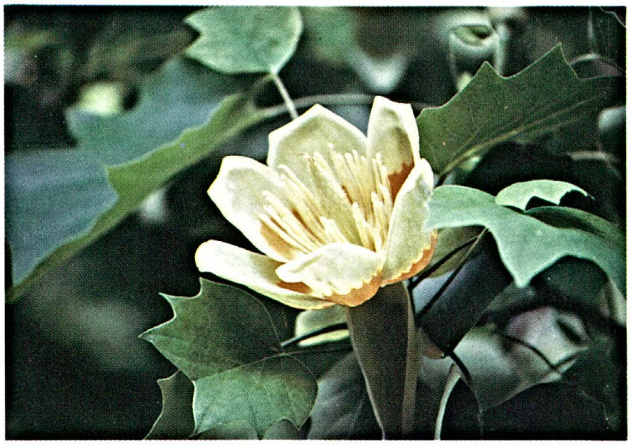
ユリノキ（Liriodendron tulipifera L.）　モクレン科

本学の正門から図書館前まで，トンネルのようにうっそうと茂った美しい並木がユリノキである。5月末から6月初めにかけて緑陰の中に淡い黄緑色がひっそりと咲く。地味な花でよく見なければ気づかないが，花びらが6枚，そのつけ根に朱色の斑点がある。花の形が一見ユリやチューリップに似ているので，ユリノキあるいはチューリップノキと呼ばれる。学名のLiriodendronというのもユリの木という意味である。モクレン科に属しコブシやホウノキに近縁で，被子植物の中では比較的原始的な植物とされる。ユリノキの類はかって第三紀に北半球に広く繁茂していたが，氷期の後に残ったのは北米東部のユリノキと中国東南部のシナユリノキの2種だけであった。

ユリノキの故郷は北米東部．アパラチア山脈を中心とする一帯である。谷底の肥沃な土地を好み，生長も早く，高さ60 m に達する大木になるという。材は色が白く家具材として優れている。またこの花からとれる蜜も珍重される。

日本には明治初期に入ったとされる。寒冷地以外ではよく育ち，風格のある樹形が好まれて街路樹や公園木として植えられている。本学キャンパスでは通称メインストリートに沿って植えられており，真先に目につく木である。だがいつの頃からか，これらの木に針金で札が結び付けられている。それが木の成長とともに幹に食い込んで，見るからに痛々しい。これはいずれ木を枯らしたり，そこから折れるおそれもあるので，早急に別の材質のものととり替えていただきたい。

教養部教授　小　島　　覚



学園ニュース編集委員

学生部長	瀧澤　弘	理学部	松本賢一
人文学部	河村貞枝	〃	広岡公夫
〃	山口幸祐	工学部	島崎長一郎
教育学部	呉羽長	〃	杉本益規
〃	原田嘉昭	教養部	髙安和子
経済学部	山﨑清	〃	山本孝一
〃	相澤吉晴		